

私の留学体験記

広島県立福山誠之館高等学校 2年 松尾 実果 (まつお みか)

留学期間 令和5年12月9日(土) ~ 12月23日(土) (15日間)

留学先 ①Oslo Handelsgymnasium高校 ②Amalie Skram高校
(ベルゲン・オスロ、ノルウェー)

<姉妹校との交流>

最初に訪れた OsloHandelsgymnasium 高校では、ビジネスやノルウェー語、宗教など日本ではあまり学習しない教科の授業に参加しました。日本語を学んでいる生徒たちと一緒に受けた English クラスでは、(Poetry and traslation(Lost in translation)俳句を英語で作るという内容の授業を受けました。日本人の私とノルウェーの生徒の両方にとって、難しいことだったのですが、私が俳句について教えたり、現地の生徒が日本ならではの表現をうまく英語にしてくれたりして、意思疎通をしながら課題に取り組みたのでとても達成感があり、楽しいと思えた時間でした。私がノルウェーの生徒と仲良くなりたくて、休憩時間に勇気を出して声をかけてみると、アニメや映画、K-POP という趣味が同じで、共通の話ができる生徒と話すことができ、自分なりに一生懸命会話をしてコミュニケーションを取ることができました。その生徒とは意気投合して SNS を交換して時々連絡を取り合っています。この時勇気を出して話しかけたことがいい結果に繋がったので、私にとって大きな成功体験の1つになりました。次に訪れたアマリエスクラム高校では、多言語でクリスマスソングを歌って競う行事に参加したり、名所がたくさんあるブリッゲン地区に観光に行ったり、ヨーロッパの伝統的なジンジャーブレッドハウスづくりをしたりするなど、様々な体験をしました。ノルウェーにいる間、ノルウェーの生徒たちとずっと一緒にいて、一緒に笑って、思い出を共有できたことで、より一層限りある交流の時間を楽しめたと思います。

<ホームステイ先での生活>

私は今回初めてホームステイを経験しました。最初に家におじゃまさせて頂いたときに日本と同じように靴を脱いでと言われたので日本以外に靴を脱ぐ文化の国があることに驚きました。ただ、玄関はなく、いきなりフローリングだったのでそこは日本とは違う部分でした。さらにもう1つ驚いたことは、ゲストルームがあることです。ノルウェーの全家庭にあるわけではないかもしれませんが、1軒屋の家だと大体地下にゲストルームがあるそうです。ゲストルームにはシャワールームや洗面台があるので、22時頃に団欒が終わりノルウェー語でおやすみという意味の「GODNATTA!」を言ったら地下のゲストルームに降りてシャワーを浴びて寝るという生活でした。ノルウェーの食生活はじゃがいもが重要で、夕食では肉や魚、野菜と合わせてじゃがいもがワンプレートで出てくるが多かったです。朝食や昼食はほぼパンが中心で、薄いパンか固めのクラッカーにハムやチーズ、キュウリやサラミ、ハムなど色々なものをのせて食べました。ホストファミリーが、パンとは合わなさそうな食材の組み合わせで食べているのを見て、驚いたこともありました。おすすめされたレバーのペーストとキュウリとクラッカーで食べてみると意外と美味しかったです。この他にも沢山の発見があり食事の時間も楽しめました。

<今回の留学を終えて>

私は二週間を通して色々な学びを得ました。中でも一番大きな学びは、積極性の大切さです。言語を学ぶという点ではできる限り自分の耳で英語を聞き取りたい、理解したいと意識することがとても大切だということを経験しました。英語圏に行っただけで英語を聞いたり話したりできるようになるわけではないので、実際に私が実践したのは、受け身な姿勢ではなく自分から行動するようにしたこと。外国人と話すということは誰にとってもハードルの高いことだと思うのですが、私は当たって砕ける精神で会話に挑んで、明確な意思表示を自分からするようにしました。そうするうちに拙い英語ではあるのですが自分の言葉でコミュニケーションを少しずつ取れるようになりました。言語を学ぶ点以外にも積極性の良いところがありました。それは、積極的に行動していたおかげで、より充実した時間を友達やホストファミリーと過ごすことができたことです。もし積極的に行動していなかったら、私が帰国してからも連

絡をほぼ毎日取るほど現地の生徒と仲良くなれていなかったと思います。私は今回貴重な経験ができたことに感謝しながら、積極的に行動することでこの経験を無駄にせず、これからの生活をより充実させ、自分自身を高めるために生かしていきたいと思います。